

奈良県立医科大学 学報



CONTENTS

7対1看護体制導入	1
入学式式辞	2
入学式の概要/新入生挨拶/オリエンテーション	3
大学院入試日程/オープンキャンパス開催案内	4
学生カウンセリングコーナー/ノーマ薬物乱用/チェンマイ大学との学術交流/ALS患者さんに感謝状	5
クラブ紹介(LIVEWIRE部・空手道部)	6
研究紹介(寄生虫学)	7
教授就任挨拶/病院教授制度創設/客員教授委嘱	8
レポート	9
平成21年度決算について	10~11
産学官連携だより	12~13
平成22年度科学研究費補助金決定	14~15
高木教授Masters Awardを受賞/看護功労賞知事表彰受賞/消防防災訓練	16
専門看護師紹介/看護師・助産師募集	17
フレッシュマン紹介	18~19
総合案内窓口改修/下ッ道/広告	20

July
2010

vol. 33

すすむサービスの向上 ～7対1看護体制～

附属病院では本年4月から、「患者数」対「看護師」の配置数を「7」対「1」とする体制が整いました。これにより、一人の看護師の受け持つ患者さんが、これまでの10人程度から7人程度へと少なくなるので、入院生活のクオリティー（質）の改善につながります。

この背景としては、平成18年の診療報酬改定において、急性期入院医療についての評価が変更されたことが挙げられます。その際、入院基本料に「7対1看護」の区分が導入され、手厚い看護体制に対して高い点数が与えられました。そのため、多くの急性期病院が看護師を増員、全国的に看護師が不足したり、その偏在が大きな問題となりました。

18年当時、奈良県の「7対1入院基本料」の届け出病床数は、全国最低レベルでした。そして、1年後の19年5月1日時点においてもなお、人口1万人あたりの届け出病床数は全国最下位でした。（中医協総会資料より）

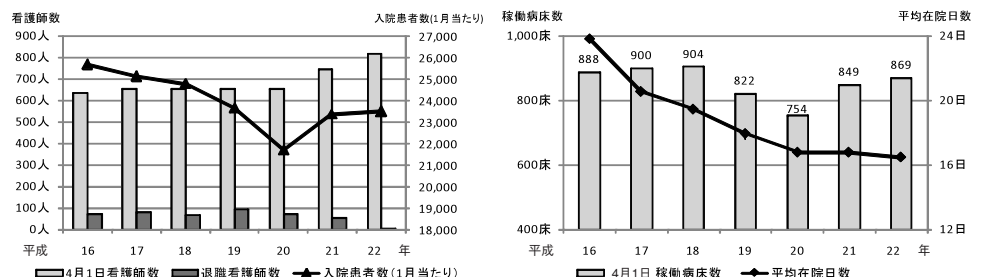
本学では、附属病院を中心に「看護師確保対策会議」を立ち上げ、毎月の採用試験、学校訪問等のリクルート活動、教育体制や処遇の充実など、職員一丸となって看護師の確保に努めてきました。

しかし残念ながら、20年度までは、多くの看護師が離職する一方、その補充を十分行えず、やむなく稼働病床数を徐々に減らしてきたのが実状です。そこで、各診療科には、入院待ちの期間が長ならないように、在院日数の短縮に努めてもらいました。

努力の甲斐あって、21年度以降、看護師数は増加に転じ、本年5月1日時点では818人の看護師が在職しています。19年4月の法人化直後の654人からは、実に164人も増えたことになります。とはいうものの、附属病院においては、今後、バースセンターの開設やNICUのフル稼働、一般病床の稼働病床増などが控えており、まだまだ看護師が足りているとは言えません。

そこで私たちが期待をかけるのが、やはりこの「7対1看護体制」なのです。看護師の離職を防ぐとともに、あらたな採用を推し進めるのに大きな効果があると思います。あわせて、新人看護師の教育、ベテラン向けの専門研修の充実や、医療従事者間の役割分担を明確化するなどの、これまでの取り組みと相まって、附属病院の医療サービスがますます向上するものと期待するとともに、今後も、高度で良質な医療を提供するため、引き続き努力する必要があると考えます。

(経営企画課)



入学宣誓式式辞

学長 吉岡 章



校庭や飛鳥川の堤の桜が諸君の入学式まで持ち堪えてくれたかのような春爛漫のこの良き日に、医学部医学科113名、医学部看護学科80名、同3年次編入生14名、合計207名の晴れやかな入学生諸君をこの奈良県立医科大学に迎えることができましたのは、私どもの大きな喜びとするところであります。入学生諸君に対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

今年の入試は少し複雑で、学生諸君を悩ませてしまったかも知れません。医学科では、今年度113名に増員(全国公立医科大学8校中で最多)しました。

いわゆる前期日程の前に緊急医師確保枠と地域枠を選考し、次いで、前期一般枠、その後、後期日程一般枠と地域枠を選抜し、計113名中一般入試で80名、地域関連で33名となりました。

看護学科は前期日程の前に社会人枠と県内推薦枠を選考し、次いで前期一般枠、その後、後期日程地域枠を選抜し、3年次編入学枠にも一般枠と、地域枠を設けました。計95名中一般入試で50名、地域関連で45名となりました。

このような構成となりましたのも、社会的問題となっています。医師、看護師の不足を是正するには、まず、優秀な地元の学生に進んで奈良医大に入学し、卒後も出来るだけ地域の医療に貢献していただきたいという思いからであります。

さて、本学の目指す教育・研究・診療の3本柱について述べておきます。

奈良医大の教授を含めた全教員数は約350名で、学生総数約1,000名に対して、人数もまたその質も全国トップクラスであります。さらに奈良医大は新しい医学・看護学の教育の開発と実践を「教育開発センター」とその専任教授を中心に進めて参りました。これに対して、一昨年から3年間の文部科学省の「質の高い教育GP (good practice)」に本学のプログラム“地域に教育の場を拡大した包括的教育の取組”が採択されました。その中で英国Imperial College Londonのe-learningシステムの導入を行いました。諸君は居ながらにして、海外の医学・医療教育を直接学ぶことも可能となったわけです。

次に、基礎医学・社会医学の推進と臨床医学との融合には力を入れています。基礎医学には解剖学や病理学など13講座と先端医学研究機構がありますが、後者の機構には日本では唯一の「住居医学講座」をはじめ、「血栓制御医学講座」や「血栓制御医学講座」といった企業による大型の寄附講座も動いています。また、本学は、世界の知の拠点であるトップクラスの大学(英国Oxford大学、タイChaingmai大学、中国福建医科大学、ドイツ

Ruhr大学、早稲田大学、奈良先端科学技術大学院大学、同志社女子大学)との間に学術連携協定を締結し、技術やノウハウを互いにシェアしながら、学生や研究者が往き来し、研究や教育面でさらに世界に発展しようとしています。

もう一つは、医療であります。これには大学病院としての高度先進医療と地元に着目した地域医療の両輪があります。本学附属病院は930床を擁し、日常疾患から超難病・高難度手術まで、先端医療が行える高度専門医療機関であります。一方、奈良県内の地域医療に対する本学の貢献の実績は極めて大きく、長年にわたって県民に奉仕してきています。一例を申しますと、約2,000名の奈良県医師会員のうち過半数を奈良医大の卒業生で占め、また、県内の18公立・公的医療機関のうち、15病院は医師全員が奈良医大関係者で占めています。一方、看護学科生も、3月に卒業した第3期生は約40%が本学附属病院に就職し、50%以上が県内の医療機関で元気に働き出しています。このように、わが奈良医大は数字で見ましても十分な地域貢献を果たしてきていると言えますが、今年度は県の要請のもと「地域医療学講座」を新設し、引き続き質と量ともに県民の負託に応えて参らねばならないと考えています。

さて、みなさん。今年度は平城京遷都1300年にあたります。聖武天皇は光明皇后とともに仏教を篤く信仰され、全国に国分寺と国分尼寺を置き、東大寺を建立し、大仏を造立されました。また、光明皇后は貧窮者や病者・孤児などを救済する「施薬院」と「悲田院」を興福寺に設立されました。おそらく我が国最古の医療・福祉施設と考えられます。縄文・弥生時代に始まった原始的な「施療」(医療的な施し)が、初めて「医療・福祉」施策の一環として、ここ、奈良・大和の地から始まったのです。また、この古都奈良は、遠くギリシャ・ローマで開花したヨーロッパ文明が、トルコ、ペルシャ、そして中国、朝鮮と悠久のシルクロードの旅を経てようやく辿り着いた終着地であり、我が国の文化・文明の揺籃期を育んだ地でもあります。

さらに、奈良医大の位置する、ここ橿原市は平城京よりも古い「藤原京」のあった日本で最古の首都であります。「やまと(倭)は国のまほろば たたなづく青垣山隠れる やまとしうるわし」、これは日本武尊(古事記では倭建命)が東国を平らげて帰途につき、ようやく現在の三重県鈴鹿市辺りまでたどり着き、故郷、倭を偲んで歌われたものであります。

諸君は、この美しい大和まほろばの地で、これから勉学を始めようとしています。日本の最も古い都で、21世紀の最も新しい先端医学・医療を学ぶのであります。これこそ愉快、痛快ではありませんか？！

どうか諸君、今日の日この感激と喜び、そして歴史的意味を忘れることなくかみしめ、この歴史ある土地に慣れ親しみ、勉学に励んで下さい。

207名の精鋭集う！ ～医学部入学式 平成22年4月7日～

立派な医療人を目指す207名の新入生を迎えて、今年も入学宣誓式が盛大に挙行されました。

これから待ち受ける厳しい勉学への覚悟を漲らせた顔、顔、顔。教職員一丸となって彼ら、彼女らを応援していこうではありませんか。

式次第

- | | |
|-------------|---------------|
| (1) 開式の辞 | (6) 奈良県議会議長祝辞 |
| (2) 入学者報告 | (7) 同窓会長祝辞 |
| (3) 入学者宣誓 | (8) 来賓紹介 |
| (4) 学長式辞 | (9) 祝電披露 |
| (5) 奈良県知事祝辞 | (10) 閉式の辞 |



入学者 全207名(医学科113名、看護学科80名、看護学科編入生14名)

新入生挨拶



奈良医大に入学して 医学科1年 岸田 勇人(きしだ はやと)

今春、晴れて奈良医大に入学でき、大変光栄に思います。新入生は113名と大所帯ですが、すでに和気あいあいとしたアットホームなクラスとなっています。

奈良医大は学生1人あたりの先生方の数が全国でもトップクラスであり、指導体制はかなり充実していると聞いております。私達も精々勉学に励まなければと、気が引き締まる思いです。

これから6年間、この恵まれた環境のもと、善き医療人になれるように研鑽してまいりますので、先生方および先輩方、どうかよろしく願いたします。



看護学科1年 池田 朱里(いけだ あかり)

桜の咲く4月に私たち80名が奈良医大に入学して早くも3カ月が経ちました。それぞれ部活に入ったり、バイトを始めたり、実習があったり、友達ができたりと、充実した毎日を楽しんでいます。看護学科は特にグループワークが多く、授業以外でもいろんな人との円滑なコミュニケーションが欠かせません。大学生活は高校までと違い、戸惑うことも多いのですが、同級生が一丸となって協力し合い、これからの4年間を歩んでいきたいと思っております。

これを終えたら名実ともに医大生！ ～新入生オリエンテーション～



医学科113名、看護学科94名(編入3年生14名を含む)の新入生を対象に、4月7日(水:入学式)の午後から「新入生オリエンテーション」を行いました。講義等の履修や学生生活に関する説明の他、体育会、文化会主催によるクラブ紹介も行われ、新入生は大学についての理解を深めるとともに、学校生活への不安が少しは取り除かれたようです。

医学科(4月8日～9日)、看護学科(4月9日～10日)はそれぞれ、宇陀市榛原区の「美榛苑」において1泊2日の宿泊研修を行いました。両学科とも一日目には喜多医学部長の、医学科では国分同窓会理事のご参加をいただきました。

さらに医学科は、3月に臨床研修を終えて医局に入局したばかりの卒業生4名(産婦人科:新納恵美子医師、同:森岡佐智子医師、皮膚科:九鬼千夏医師、泌尿器科:武長真保医師)から、学生時代の想い出や医師になった動機、現在の生活などについてインタビュー形式でお話をうかがいました。

また、看護学科は2日目の研修において、本学附属病院で勤務している卒業生(C病棟7階:飯田貴世子看護師、C病棟5階:叶裕子看護師、精神医療センター:中西久仁子看護師)から、「将来、医療従事者になるにあたって」というテーマで学生時代や卒業後の話、さらに看護師としてのメッセージをいただきました。

新入生たちは先輩からの貴重な話に熱心に耳を傾け、あらためて医学部に入学したことを実感していました。のべ3日間の短い時間でしたが、新しい友や先輩と大いに語り、これからの学生生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないのでしょうか。

新たな学びがあなたを待っています 平成23年度 大学院入試日程

大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7(名)	第一次募集 平成22年9月27日(月) ～10月1日(金)	第一次募集 10月18日(月)	第一次募集 11月9日(火)
生体情報・病態制御医学専攻	13	第二次募集 平成23年1月17日(月) ～1月21日(金)	第二次募集 2月7日(月)	第二次募集 3月8日(火)
生体分子・機能再建医学専攻	20			

社会人の入学も可能です。

社会人とは、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5(名)	第一次募集 平成22年9月6日(月) ～9月10日(金)	第一次募集 9月27日(月)	第一次募集 10月12日(火)
		第二次募集 平成23年1月31日(月) ～2月4日(金)	第二次募集 2月16日(水)	第二次募集 3月8日(火)

博士課程と同様、社会人の入学も可能です。

但し社会人入学の場合、平成23年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

学生募集要項は、学務課教務係(大学本館1階)で配付しています。

また、ホームページ(<http://www.naramed-u.ac.jp/~jyuken/>)でも確認できます。

装いも新たに! オープンキャンパス迫る

●医学科 8月7日(土) ●看護学科 8月8日(日)

今年度は新しい試みとして、オープンキャンパスの開催日を医学科と看護学科に分けて実施することになりました。

多くの方に参加していただけるよう、お知り合いに声をかけてください。

主に高校生及び受験生を対象としますが、どなたでも参加することができます。

また、実施にあたり関係の皆様のご協力をお願いいたします。

◎期 日

医 学 科 平成22年8月7日(土) } 両日とも13時から
看護学科 平成22年8月8日(日) }

◎場 所 大講堂等

◎内 容(一部変更となる場合があります)

- ・学長講演
- ・学科紹介
- ・模擬講義 医学科の模擬講義は、産婦人科の講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」とタイアップして実施します。
- ・在校生、卒業生メッセージ
- ・施設見学
- ・相談コーナー

～ボランティア募集～

医学科、看護学科とも、多数の参加者が見込まれます。

在学生で当日の受付、施設見学及び個別相談を手伝ってもらえる方を募集しています。

ボランティアの受付は、学務課厚生・入試係で行っています。ご協力をお願いします。

ひらめき☆ときめき サイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI (産婦人科)

オープンキャンパスとタイアップして下記のとおり開催します。こちらのPRにもご協力をお願いします。

◎期 日 平成22年8月7日(土)、8日(日) ◎対 象 高校生(2年生、3年生の女子のみ) 各日20名
両日とも10:30～17:00 ◎テーマ ・生命の神秘と誕生～赤ちゃんの発育と病気～

◎場 所 基礎医学校舎4F 小講義室

※詳細、申し込み方法は右記アドレスをご参照ください。 <http://www.naramed-u.ac.jp/~gyne/>

一人で悩まず相談を！～「学生カウンセリングコーナー」のお知らせ～

学生のみなさんが、日常生活における悩みや不安、将来のことなどを相談できる「学生カウンセリングコーナー」を次のとおり開設しています。

開設日 毎週金曜日

場所 蔵櫃会館1F会議室2

時間 午後4時30分から午後6時30分まで

相談員 臨床心理士 近池 操先生と本学医学科教員が隔週で対応

相談は原則予約制ですが、予約が空いている場合は当日でも受付できます。

問い合わせ、相談、予約受付は、**学務課厚生・入試係（内線2214）**まで。

また、学生相談HP（学内専用 <http://top.naramed-u.ac.jp/zaigaku/>）も開設し、メール（soudan@naramed-u.ac.jp）での相談、予約受付も行っています。※相談の秘密は厳守します。

ノーモア「薬物乱用」！～4月28日 講演会を開催～

大麻等の不法所持で大学生や中学生、教師が逮捕される等、薬物乱用は大きな社会問題となっています。そこで、4月28日（水）、医学科1年生を対象として「薬物乱用」に関する講演会を開催しました。医師をめざす新入生に、薬物乱用の危険性・弊害等を認識し、これからの学生生活に役立ててもらおうとするものです。

前半は、奈良県警察本部刑事部 組織犯罪対策第一課の山野勝彦警視を講師として招き、「トラップ（罠）」の演題で、薬物被害の実態をドキュメンタリータッチで描いたDVDを見た後、薬物犯罪の現状について話をいただきました。また、違法薬物に関する模擬品や各種資料が専用車で展示され、学生たちが興味深そうに見学していました。

後半は、薬理学 吉栖教授による「薬物取締法と麻薬の薬理作用」についての講義があり、違法薬物の種類やその化学的な特徴などを学びました。新入生は、難解な化学用語に戸惑いながらも、将来医師を目指す者として、熱心に耳を傾けていました。

閉会后、「違法薬物の恐ろしさがあった」、「誘惑に負けないためには強い気持ちを持つことが大切だとわかった」等の感想が寄せられました。

なお、この講演会は医学科学生生活部会（部会長：地域健康医学 車谷教授）の事業として実施したのですが、部会では今後も学生生活に密接に関係するテーマを取り上げて開催する予定です。



進めてきました草の根交流 ～タイ・チェンマイ大学にて～

タイのチェンマイ大学を交換留学生として10日間訪問しました。今回で第11回目となるそうです。同大学の学生の間では、受験時だけでなく入学後も勉学の競争が激しいようで、医学に熱心に向き合う彼らの姿勢に大変刺激を受けました。臨床教育システムは欧米式であり、より実践的な知識と技術の習得に力を入れているように見受けられました。

また、現地の人たちとの交流を通じて、仏教に根差した礼節を重んじるタイの文化にも触れることができました。

後輩の皆さんもこの制度を利用し、チェンマイ大学生の医学に対する熱き思い、そしてタイ文化の一端に是非触れてみてください。

・派遣学生: 医学科5年梶田明裕、6年西畑陽介、6年濱田祐斗(文責)、6年矢田匡 4名

・派遣期間: 平成22年3月28日～4月6日

※学務課から 今年も10月に派遣学生の募集を行う予定です。



チェンマイ大学のアンヤビーさん(中央)とドイステープ寺院にて

「ここは日本でいう東大寺のようなところ
だそうです」

3月下旬から4月上旬にかけて、チェンマイ大学の学生2名が本学に滞在し、交流を深めました。アンヤビーさんはそのうちのお1人です。



心から御礼申し上げます

～川向武彦氏・杉本孝子氏へ感謝状を贈呈～

看護学科・地域看護学領域では、地域看護援助論Ⅱという授業科目の中で、難病保健について学習するため、従来からALS患者の方を招いてお話を伺っています。

今年も5月28日に、川向武彦、杉本孝子の両氏が「ALSと共に歩む」と題して、ご自身の体験を語っていただきました。この功績に対して、感謝状を贈呈いたしました。

看護学生にとって、生きることの大切さとそれを支援する看護職の高邁な使命を実感することは、将来の地域医療を担っていくためには欠かすことのできないプロセスです。

お二人の本学に対するご貢献にあらためて深く感謝申し上げますとともに、看護教育の質の向上に、今後とも努力してまいります。

通称ALS: Amyotrophic Lateral Sclerosis 筋萎縮性側索硬化症(きんいしゅくせいそくさくこうかしょう)とは

筋萎縮性側索硬化症とは、手足・のど・舌の筋肉や呼吸に必要な筋肉がだんだんやせて力がなくなっていく病気です。

しかし、筋肉そのものの病気ではなく、筋肉を動かし、かつ運動をつかさどる神経(運動ニューロン)だけが障害をうけ、脳から「手足を動かせ」という命令が伝わらなくなることにより、力が弱くなり、筋肉がやせていくのです。その一方で、体の感覚や知能、視力や聴力、内臓機能などはすべて保たれることが普通です。

(参考: 難病情報センター <http://www.nanbyou.or.jp/>)

本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。
多くの方は、文化系12部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。

今回から順次、これらのクラブの活動をお届けします。汗と涙、笑いとペースに彩られた若人たちの物語です。

学生の皆さんは、気になるクラブがあったらぜひ覗いてみてください。教職員の皆さんには、心からの声援・応援、そして助言（できればカンパも）をよろしくをお願いします。

さて第1回は、ライブワイヤー部と空手道部です。



LIVEWIRE部

「We are LIVEWIRE!!!」

部員:70名

部長:岡本 優香(4年)

活動内容:ロックやポップス、R&Bなどのバンド活動

練習日:バンドごとに調整

皆さんこんにちは☆ライブワイヤー部は部員70名というとても大きなクラブです。1991年に部として正式に認められ、年に2回のホールライブを中心に対外的にも活発に活動しています。

1年を通しての主な活動内容は、次のようになっています。

♪入学式：大講堂で新入生を前に、主に幹部メンバーがバンド演奏をします。

♪関西医薬連ジョイントライブ：5月の連休のうち2日間、関西の医学部・薬学部の大学が集まります。ライブワイヤー部からは毎年2バンドが代表して出演し、ホール全体が一体となり大いに盛り上がります(≧ω≦)♪

♪新入生歓迎会：新入生を思い切り歓迎しま〜す(^-^)

♪夏の定期演奏会：新入生が初めてホールで演奏を披露！ドキドキ♪

♪夏合宿：8月後半に3日間合宿をします。去年は合歓の郷に行きました。気の合うメンバーでバンドを組み、自然に囲まれながら和気あいあいと練習をします。自由時にはドライブに出かけたり、花火やバーベキューをしたり、海水浴に行ったりと、楽しさ満開(≧▽≦)♪

♪学祭：大学の野外ステージでのライブは、ホールとはまた一味違う感じでとても気持ちいいですよ〜(^▽^)

♪冬の定期演奏会：引退される先輩方の演奏に感動の涙(; -;)です。

♪追い出しコンパ：お世話になった看護学科4回生、医学科6回生の先輩をナミダナミダで追い出します(>_<)

♪他にも不定期で他大学さんとのジョイントライブで交流が深まります☆

そして来年は部活開始から20周年という記念すべき年なので、大きなイベントを予定しています。

たくさんの同級生、先輩、後輩、ときにOB,OGの先生方と、様々なジャンルの音楽を、好きな時、好きなように、好きなだけ楽しめる自由なクラブです☆

皆さん、気軽にライブワイヤー部に遊びに来て下さいね^o^♪

We are LIVEWIRE!!!!!!!



空手道部

「変わらぬ目標～西医体優勝 めざして～」

部員:22名(男子12名、女子10名)

部長:内原 悠斗(4年)

活動内容:空手道

練習日:毎週月、水、金 午後5時～

2010年 六医体 in奈良医大

空手道部は、同好会時代を含む約60年もの歴史と、100名近いOB、OGの先輩方が在籍してこられた伝統を誇る部活動です。現在、産婦人科学教授の小林浩先生に部長をお引き受けいただき、糸東流空手道新和会新谷忠春師範、新谷純男先生のご指導のもと、部員一丸となって厳しくも楽しい稽古に励んでいます。

タイトルにある「変わらぬ目標」、それは私たち医学生にとって最大・最高の大会である「西医体」での優勝です。私が入部したときから、先輩方は常にそれを目標に掲げておられました。しかし残念なことに、遠ざかって久しいものがあります。部室に飾られている過去の西医体優勝時の賞状やトロフィーを眺めるにつけ、どうすれば自分たちもこの栄光を取り戻せるのかと考えながら日々の練習内容に工夫を加えています。来年の西医体空手道部門は本学が主管することになりました。開催地として「結果」を残すためにも精進していきたいです。

次に、今、部が抱えている問題について述べます。それは、十分な練習場所をとれないことです。週3回の練習のうち、2回を体育館の舞台の上で行っているのですが、部員が増えてきていることもあり、そろそろ限界かなと感じることもあります。練習の質を高め、幅を広げるためにも、試合会場と同じような環境、たとえば武道場のような施設があれば嬉しい限りです。

最後になりますが、皆さんは空手部にホームページがあることをご存知でしょうか。部員一人一人の紹介、試合結果、部の予定などを載せ、マメに更新しています。毎回の練習の日記もありますので、是非ご覧になってください！

http://www.geocities.jp/naramed_karate/

発毛、内耳再生へのアプローチ

助教 王寺幸輝、准教授 吉川正英、教授 石坂重昭



左から王寺(息子と)、吉川、石坂

寄生虫感染は自然移植モデルであり、移植免疫を解決すべき試みの中で、1996年クローン羊ドリーの出現は新たな移植への道を示した。そこで、当教室では1998年よりマウス胚性幹細胞 (ES細胞) を用いた再生医学から移植への可能性を探索し始め、ES細胞から肝細胞¹⁾、膵β細胞²⁾、神経細胞³⁾等への分化誘導の成果を挙げてきた。ここでは現在進めている発毛、内耳再生についてご紹介します。

●発毛再生に関する研究

「発毛」は、細胞間相互作用から始まり、さまざまな「毛」に関わる遺伝子、タンパク質の発現およびパターンニングによって生み出される現象である(詳しくは参考文献⁴⁾を参照されたい)。ヒトでも身近に観察できる“再生現象”であるが、この現象を試験管内で再現しようとしても、できないのが現状である。これは、試験管内での環境 (*in vitro*) と生体での環境 (*in vivo*) が異なるためと考えられるが、*in vivo*での環境を模倣することで実現できる可能性がある。1990年代より、細胞分化や様々な組織、器官形成にWnt(ウイント)という分泌性タンパク質が重要な役割を果たしていることが明らかとなっており、今日ではそれらの研究報告は指数関数的に発表されている。このWntは、発毛に関しても重要な役割を果たしていることが最近注目されており、我々もこのタンパク質に注目し研究を進めている。我々は、特にWnt-10bが発毛シグナルを強力に誘導することを明らかにし⁵⁾、ヌードマウス(無毛マウス)に発毛を誘導できたことから(図1参照)、*in vivo*でもその有効性を明らかにした⁶⁾。Wntには様々な種類が存在し、それぞれが機能していることも明らかにしているが、それらが適切に組み合わせられた際に、発毛を試験管内で実現できる日はそう遠くないと手ごたえを感じながら、研究を進めている(科研費・若手(B):平成22~23年度、代表者・王寺幸輝)。

●内耳再生に関する研究

今やES細胞から様々な細胞に分化誘導する手法が開発されているが、内耳有毛細胞という細胞種に関しては、かなり報告が少ない。この有毛細胞であるが、その名の通り、細胞に「毛が生えている」のである(図2)。前述した“発毛”と聞こえは同じようであるが、全く異なっており、この“毛”は聴毛と呼ばれる感覚神経の「機能を有する“毛”」とでも言えよう。この“毛”を有する有毛細胞は、難聴患者あるいは高齢者において聴毛の消失、すなわち細胞の機能消失が生じる。そのため、この細胞をES、iPS細胞などから誘導できれば、難聴も治療できるのではないかという戦略である。かなりマニアックな細胞であるが故、研究対象の盲点になりがちだが、難聴治療のカギともいえるこの細胞を人工的に作り出すべく、マウスES細胞より有毛細胞へ分化誘導する方法を我々も開発している。有毛細胞のマスター遺伝子を遺伝子組み換え技術を用いることで強制発現した場合、有毛細胞特異的遺伝子の発現が認められた(図3参照)。現在、この細胞が実際に有毛細胞として機能し得るか、また難聴治療に利用できるかを動物実験で検証しており、さらに霊長類ES細胞を用いた研究も進行中である(科研費・基盤(B):平成22~24年度、代表者・吉川正英)。



図1

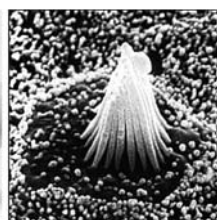


図2

遺伝子導入	なし	あり
Gapdh	なし	あり
Myosin7a	なし	あり
Myosin6	なし	あり
Math1	なし	あり
Brn3c	なし	あり
α9AChR	なし	あり

図3

参考文献

- 1) S. Ishizaka, et al., *FASEB J*, **16**, 144-146 (2002).
- 2) A. Shiroi, et al., *Stem Cells*, **20**, 284-292 (2002).
- 3) F. Nishimura, et al., *Stem Cells*, **21**, 171-180 (2003).
- 4) 王寺幸輝ら、発毛の再生医学、*奈良医学雑誌*, **59**, 33-41 (2008).
- 5) Y. Ouji, et al., *Biochem Biophys Res Commun*, **359**, 516-522 (2007).
- 6) Y. Ouji, et al., *Biochem Biophys Res Commun*, **345**, 581-587 (2006).

就任あいさつ



生物学教育と研究

生物学 教授 永淵 昭良 (ながふち あきら)

平成22年7月1日付けで生物学教室を担当させていただくことになりました。前途ある学生達の大学教育の第一歩に関わることへの大きな期待と責任を感じております。

私は京都大学理学部を卒業後、東京都臨床研、岡崎生理研、京都大学医学部、熊本大学発生研において研究・教育に携わってきました。具体的には細胞生物学に立脚し、細胞間接着を中心に多細胞体制構築機構の解明を行ってきました。奈良医大においても動物の発生や細胞の癌化に深く結びついたこの分野において世界水準の成果を上げることで、学生達の生命・医学

に対する興味を引き起こす呼び水になるように努めていきたいと考えております。

また、学生達には自分で独自に考えることの重要性について伝えることにより、奈良・日本そして世界の医療・医学研究を支える人材の育成の基盤を作りたいと考えております。どうぞ皆様の温かいご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



医学教育を担当します

教育開発センター 教授 藤本 眞一 (ふじもと しんいち)

平成22年7月1日付けをもちまして、教育開発センターを担当させていただくことになりました。重責に身の引き締まる思いです。これまでの本学の教育改革の流れを引き継ぎ、さらに発展させるように努力して参りたいと考えています。

教育には、教員・学生による評価が重要ですが、何より優先されるべきであるのは教育理念であると考えています。したがって、すべきことは果敢に推進するという、不退転の決意が必要な

場合もあります。また、教育は、間断なく、待たなしで進んでいかねばならないので、そのマネジメントには「迅速」、「確実」が要求されます。十分議論し、着実な対応に心掛けたいと思います。

どうか、皆様には、温かい御支援を賜りますように、何卒よろしくお願い申し上げます。

(総務課)

益々のご活躍を ～藤井、吉田両先生が「病院教授」に～



今年度から、「特に診療面で優れた実績が認められる者に対し「病院教授」の称号を付与する」制度が新たにできました。これは、附属病院における医療の質や診療実績の向上、さらには診療収益の改善等を図るために設けられたものです。

これを受けて、6月1日付けで、次のお二人に付与されました。

30年以上にわたる長い臨床経験と、所属での指導的な役割等を高く評価されたことによるものです。

中央内視鏡・超音波部 藤井久男先生
透析部 吉田克法先生

左から吉田病院教授、吉岡学長、藤井病院教授

ご指導、ご助言をお願いします ～古西先生が「客員教授」に～

専攻分野における教育、研究、診療及びそれらに係る指導又は助言をいただくため、「客員教授」制度を設けています。

6月1日付けで古西満先生(前感染症センター准教授)に感染制御内科の客員教授を委嘱しました。

なお、内分泌・代謝内科の岡本新悟先生には、平成20年1月1日から委嘱しています。

役員会及び教育研究審議会の報告

第1回 役員会（4月7日）

- 1 今年度予定される教授選考の進め方について、教育研究審議会において意見聴取することを決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 教員の人事について
- (2) 臨床教授等の選考について
- (3) 本学修士課程から博士課程へ進学した者の早期修了について
- (4) 研究用放射線障害予防規程の一部改正（案）について
- (5) 動物実験委員会委員、ラジオアイソトープ委員会委員の改選について
- (6) 医学科学務委員会規程の一部改正（案）について
- 3 各種委員会委員の選任を報告
- 4 卒業者の進路等を報告
- 5 入学者の状況を報告
- 6 住居医学研究奨励金交付決定状況を報告
- 7 科学研究費補助金交付内定状況の速報を報告

第1回 教育研究審議会（4月8日）

- 1 教授選考スケジュールについて、今後の進め方等、選考の方向性を確認
- 2 5月1日付け教員人事を承認
- 3 臨床教授等の選考を決定
- 4 本学修士課程から博士課程へ進学した者の早期修了について承認し、4月8日付けで施行
- 5 研究用放射線障害予防規程の一部改正を承認し、4月1日付けで施行
- 6 動物実験委員会委員、ラジオアイソトープ委員会委員の交代を承認
- 7 医学部医学科学務委員会規程の一部改正を承認し、4月1日付けで施行
- 8 各種委員会委員の選任を報告
- 9 医師及び看護師等の国家試験結果、看護学科学士の進路状況及び臨床研修医の採用状況を報告
- 10 各学科、大学院博士課程及び修士課程の入学者の状況を報告
- 11 住居医学研究奨励金交付決定状況を報告
- 12 科学研究費補助金交付内定状況の速報を報告

第2回 役員会（4月14日）

- 1 病院教授の選考に係る関係書類について審議
- 2 救急医療等業務従事手当及び診療業務手当を承認

第3回 役員会（4月21日）

- 1 固定資産等管理規程及び図書管理規程を承認し、4月21日付けで施行
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 中央標本室委員会規程の一部改正及び委員の改選について
- (2) 保健師課程選択制導入に係る今後のスケジュール（案）について
- 3 看護師2名の採用を決定

第4回 役員会（4月28日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 臨床教授等の称号付与について
- (2) 客員教授の選考について
- (3) 病院教授の選考について
- (4) 教育開発センター教授の選考方法について
- 2 平成21年度業務実績報告書（案）について意見聴取

第2回 教育研究審議会（4月30日）

- 1 中央標本室委員会規程の一部改正及び委員の改選を承認し、4月1日付けで施行
- 2 教育開発センター教授の選考方法について審議、選考会議に差し戻し、その決定をもって審議会の決定事項とすることを決定
- 3 客員教授の選考について承認し、教授選考会議へ提案
- 4 病院教授の選考について承認し、結果を役員会へ報告
- 5 平成21年度業務実績報告書（案）について意見聴取
- 6 保健師課程選択制導入に係る今後のスケジュールを承認、保健師課程の平成23年度からの選択制導入についてホームページ等で周知させることを決定
- 7 臨床教授等の選考を決定

第3回 教育研究審議会（5月11日）

- 1 生物学教授候補者として永沼昭良氏を承認、役員会に答申
- 2 老年看護学教授候補者として松井美帆氏を承認、役員会に答申
- 3 感染制御内科客員教授候補者として古西満氏を承認、役員会に報告

第5回 役員会（5月12日）

- 1 生物学教授として永沼昭良氏を決定
- 2 老年看護学教授として松井美帆氏を決定
- 3 感染制御内科客員教授として古西満氏を決定、6月1日付けで委嘱
- 4 病院教授として中央内視鏡・超音波部藤井久男氏、透析部吉田克法氏を決定、6月1日付けで称号付与

- 5 平成21年度末での債権償却を承認

- 6 精神保健福祉士2名、社会福祉士2名、臨床心理士1名の採用を決定

第6回 役員会（5月19日）

- 1 教育研究審議会予定案件（発明届2件）を承認
- 2 看護師1名、助産師1名の採用を決定
- 3 国庫補助事業の申請状況等を報告

第7回 役員会（6月2日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 教員人事について
- (2) 教員の海外留学（期間延長）について
- (3) 臨床教授等の選考について
- (4) 医師配置システム構築に向けた基本合意（案）について
- (5) 教授選考スケジュール（寄生虫学、成人看護学）について
- (6) 平成24年度入試センター試験での試験科目の取扱いについて
- (7) 平成21年度業務実績報告書（案）について
- (8) 平成22年度講座・教員研究費配分について
- (9) （仮称）連携活動推進基金の設置について
- 2 （仮称）中央手術棟整備にかかる基本計画を承認
- 3 授業料の減免制度について検討の結果、学務委員会にて再検討
- 4 助産師1名の採用を決定
- 5 平成21年度決算関係書類を報告
- 6 医学科同窓会による海外留学助成金の被推薦者を報告

第4回 教育研究審議会（6月3日）

- 1 第一内科学・斎藤教授から提出された発明届について、特許等を受ける権利の承継を決定
- 2 住居医学・筏教授から提出された発明届について、特許等を受ける権利の承継を決定
- 3 7月1日付け教員人事を承認
- 4 麻酔科学・瓦口至孝助教の海外留学期間の延長を承認
- 5 放射線医学・田中利洋助教の海外留学期間の延長を承認
- 6 教育教授規程及び研究教授規程を承認、6月3日付けで施行
- 7 医師配置システム構築に向けた基本合意（案）を承認
- 8 教授選考スケジュール（寄生虫学、成人看護学）を承認
- 9 平成21年度業務実績報告書（案）を審議
- 10 平成22年度講座・教員研究費の配分を承認
- 11 早稲田大学との連携活動推進基金規程の制定及び寄附金規程の一部改正を行い、6月3日付けで施行
- 12 麻酔科学、救急医学から推薦のあった臨床准教授の選考を承認
- 13 平成24年度大学入試センター試験での社会科科目追加を承認
- 14 医学科同窓会による海外留学助成金の被推薦者を報告

第5回 教育研究審議会（6月8日）

- 1 教育開発センター教授候補者として藤本眞一氏を承認、役員会に答申
- 2 精神看護学教授候補者として軸丸清子氏を承認、役員会に答申

第8回 役員会（6月9日）

- 1 教育開発センター教授として藤本眞一氏を決定
- 2 精神看護学教授として軸丸清子氏を決定
- 3 教育研究審議会予定案件（発明届について）を承認
- 4 嘱託職員の処遇について検討、対応を確認
- 5 （仮称）中央手術棟整備にかかる基本計画を確認
- 6 病院診療債権の回収状況を報告
- 7 医師配置システム構築検討協議会設置要綱を承認、6月9日付けで合意

第9回 役員会（6月16日）

- 1 （仮称）地域医療学講座規程（案）を検討、継続審議
- 2 平成21年度決算見込を報告
- 3 教育教授及び研究教授の選考にかかる関係書類を確認
- 4 臨床検査技師7名、臨床工学技士5名の採用を決定

第10回 役員会（6月23日）

- 1 平成21年度決算を承認
- 2 平成21年度計画の評価を承認
- 3 看護師3名の採用を決定
- 4 教育研究審議会予定案件（保健師課程選択制に伴う同課程を選択できる学生数について）を承認
- 5 来春卒業見込み者の看護職員採用試験の応募状況を報告
- 6 早稲田大学との連携講座の受講申込者数を報告
- 7 放射線医学講座への外国人客員研究員の受け入れを報告

第6回 教育研究審議会（6月29日）

- 1 成人看護学教授選考にかかる基本方針（案）を答申
- 2 総合医療学講座の教授代行として榎副学長を承認
- 3 放射線医学講座への外国人客員研究員の受け入れを報告

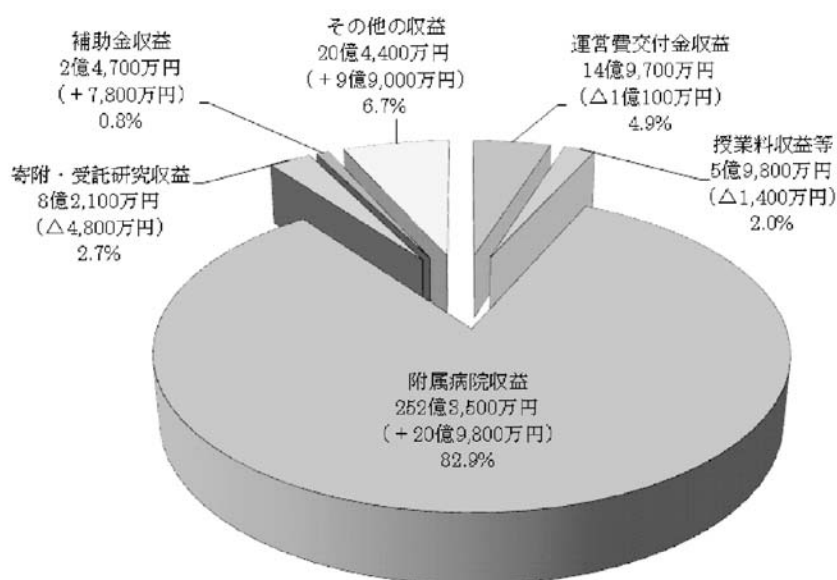
第11回 役員会（6月30日）

- 1 育児休業規程等の一部改正を承認、6月30日付けで施行
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) （仮称）地域医療学講座規程（案）について
- (2) 平成23年度医学科入学試験の改正点について
- 3 看護職員採用試験（来春卒業見込み者）の合格者を決定

平成21年度 公立大学法人奈良

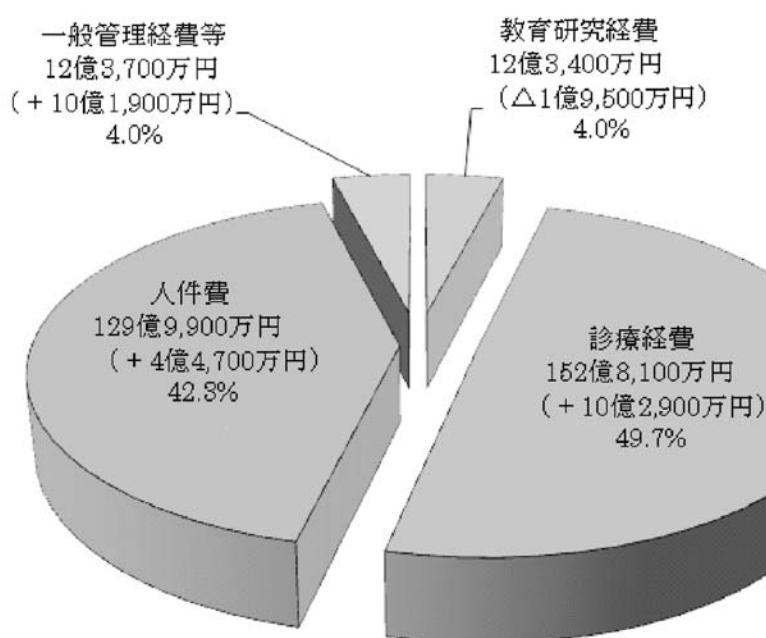
平成21年度決算は、収益 304億4,219万円、費用 307億5,088万円で、**差引 3億869万円の赤字決算**となりましたが、平成20年度よりも大幅に赤字額が減少しました。
 (参考：平成20年度 収益 274億3,864万円 費用 284億5,132万円 差引 10億1,268万円の赤字)

収益 304億4,219万円



※ () 内は前年との増減額

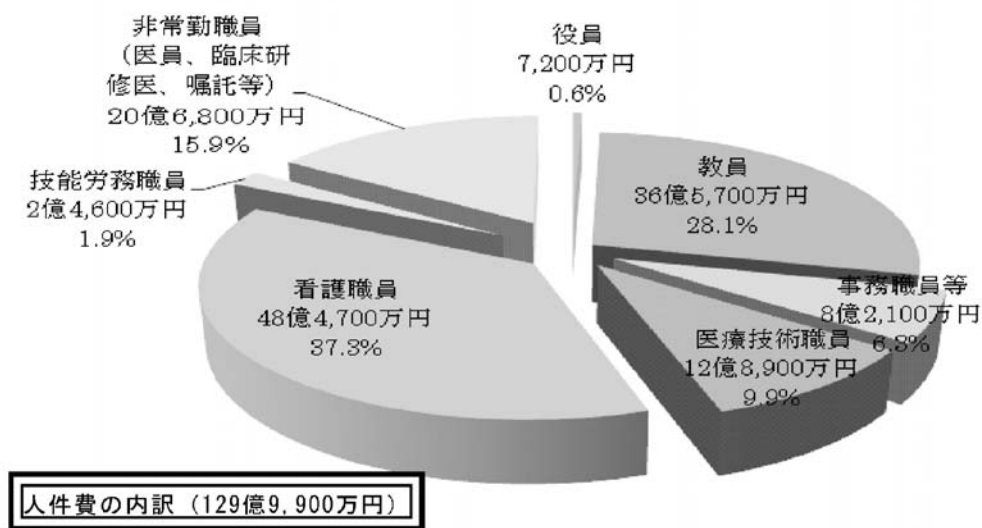
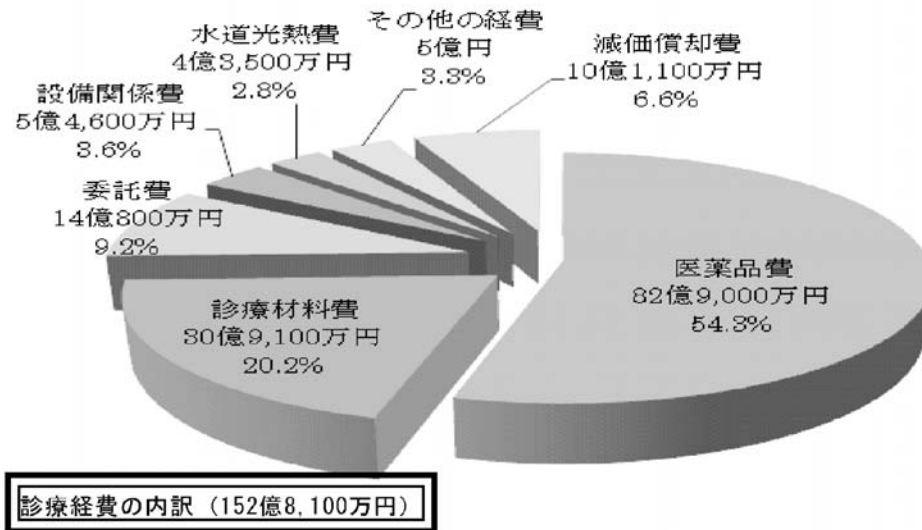
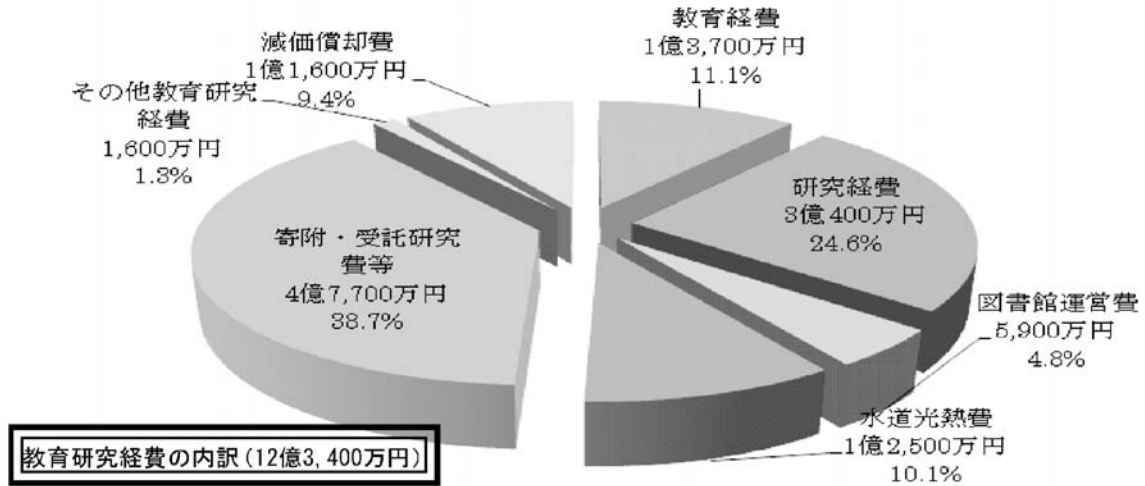
費用 307億5,088万円



内訳は右ページのとおり

県立医科大学の決算について

(財務企画課)



平成21年度は附属病院収入の増収などにより、前年度に比べ赤字額が大幅に減少いたしましたが、累積赤字は引き続き増加しております。(累積赤字 18億215万円)

今後もより一層の経営改善を図り、累積赤字を減少させていくため、皆さんには引き続きそれぞれの分野でのご協力をよろしくお願いいたします。

産学官連携だより

産学官連携と特許取得 ～学会発表前に出願が大原則～

関西TLO(株)との業務委託を受け、知財担当として競争的資金の案内説明等で研究室をお伺いする機会が増え、発明に関する相談を受けることも多くなりました。今回は「産学官連携と特許取得」について説明させていただきます。

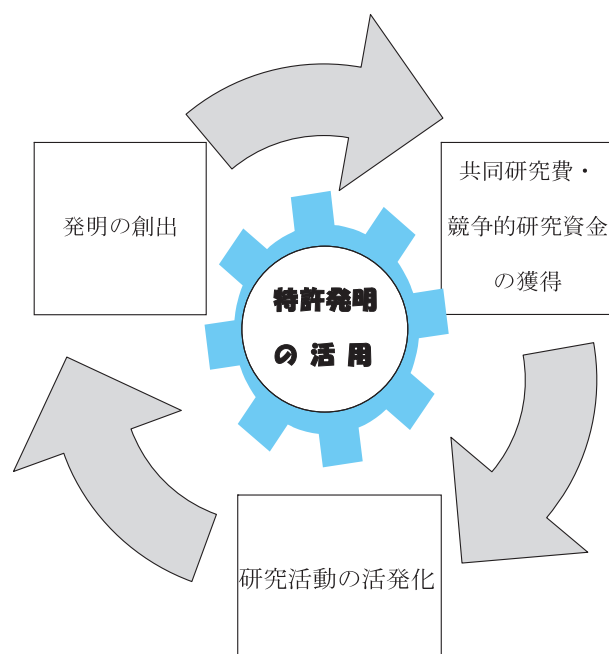
特許は技術を公開する代償として一定期間その技術を独占使用できる権利ですので、企業にとっては競争相手を排除できることから、事業化の見通しが立てやすくなります。大学が企業にとって利用可能な特許を取得していれば、連携の相手として魅力があり、大学側により優位な条件で産学官連携を進めることも可能となります。これにより大学としての社会貢献を果たすことにもつながります。

研究者の方々が特許となり得る新たな発明を創出する場合として、①産学官連携による研究活動(例:企業との共同研究)の成果による場合と、②大学独自の研究活動の成果による場合が考えられます。①では、当該特許発明を活用するパートナー(企業)がいます。その収益は連携相手との合意に基づいて享受することになります。②では、大学は自ら事業を行うことができませんので当該特許発明を活用するパートナー(企業)を見つけなければなりません。企業に魅力的な特許発明であれば多くの引き合いが出てきます。

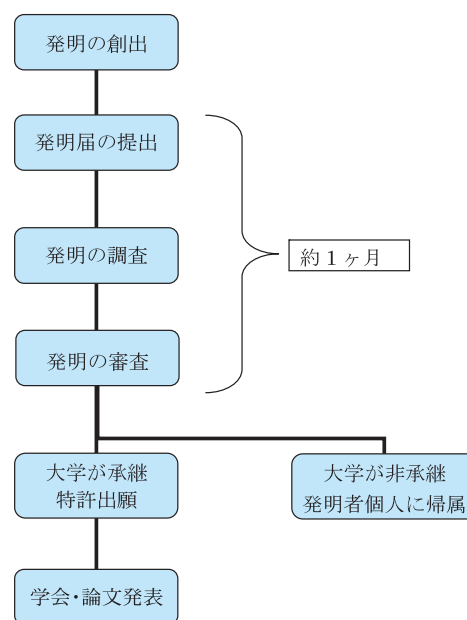
本学は医学部のみの大学で産学官連携では製薬企業と結びつきが強いという特性から特許取得に熱心になる必要性は低かったかもしれませんが、しかし、昨今は企業による大学の選別もシビアになると同時に、大学同士の競争も激しさを増しており、特許の有無が競争的研究資金の獲得、パートナー(企業)の獲得等にも大きく影響してきます。企業にとって魅力的な特許を取得することは、産学官連携のための先行投資であると言えます。本学においても特許発明を活用して研究活動を活発化させる図1のようなサイクルを生み出すことが必要で、それを支える体制づくりが必要です。

特許を権利化する際、研究者の方々にご注意いただきたいのは、**学会発表や論文発表等で公開される前に**特許庁への特許出願手続きを行わなければ、特許として成立しないという点です。例外規定はありますが、特許としての価値は低いものになりますので、新たな発明を創出した場合は、学内での手続きを行うだけの時間的余裕(1ヵ月程度、図2参照)を持って研究推進課(内線2552)又は関西TLO(内線2481)までご連絡ください。

【図1 特許発明活用のサイクル】



【図2 特許取得手続きの流れ】



5月11日 第1回 知的財産セミナーを開催しました



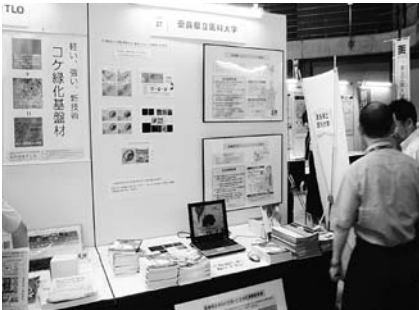
井上幸子先生(奈良先端科学技術大学院大学)

本学では、昨年度から大学知的財産アドバイザーとして(独)工業所有権・研修館(通称:INPIT)より金崎参与の派遣を受け、本学における新たな知的財産管理体制構築に向けて種々の検討を進めているところです。その一環として平成22年度1回目の「知的財産セミナー」を開催いたしました。今回の講師は、本学との間で協定を締結している奈良先端科学技術大学院大学の産学官連携推進本部特任准教授で弁理士の井上幸子先生と、今年度から知的財産マネジメント業務の委託契約を締結し、既に活発に活動している関西TLO(株)の坂井貴行取締役をお招きしました。

それぞれ「奈良先端科学技術大学院大学における産学官連携活動と知的財産管理について」、「関西TLO株式会社の大学研究者支援と技術移転業務の展開について」ご講演いただきました。

当日は、本学の教職員だけでなく、県内企業関係者の皆様も含め、総数75名の参加をいただきました。今後も開催いたしますので、ご期待ください。

科学・技術フェスタin京都(平成22年度産学官連携推進会議)に参加・出展しました



本学の出展ブース

6月5日(土)国立京都国際会館で開催されました「科学・技術フェスタin京都」に、本学からは小西研究部長他が参加しました。展示コーナーに、初めてブースを設け、泌尿器科学及び産婦人科学における都市エリア事業での成果と消化器・総合外科学におけるiPS細胞からの腸管誘導の研究成果を紹介しました。出展機関数は大学等219を数え、参加者はフェスタ全体で5,121人という大規模な催しで、全国の最新の産学官連携活動の状況に触れることが出来ました。

教育・研究活動に加え、社会貢献活動が新たな使命として大学に求められている中で、全国の殆どの国公立大学では、既に産学官連携活動を推進するための体制整備を完了し、積極的に種々の取り組みを行っています。

本学の財政状況は厳しいですが、県立大学として研究成果を広く社会に還元し、地域の活性化に資するため、産学官連携活動を推進する体制を整備することとしています。

奈良医大の産学官連携業務にかかわって感じること

～関西TLO(株) 取締役 坂井貴行～

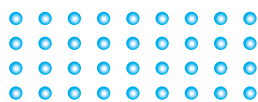
奈良県立医科大学の産学連携・技術移転業務を担当させていただき、3か月あまりが経ちました。この間、約50人の先生方とご面談させていただき、新しい発明の開示や研究内容の動向など、いろいろとディスカッションをさせていただきました。お時間をいただきました先生方、お忙しい中ありがとうございました。

私どもが先生訪問で気づいたことは、いろいろなお仕事に忙殺されながらも、医学や看護学の発展のため、また患者様を第一に考えられ、真摯に基礎研究や臨床研究に取り組まれている姿です。そして、その中には他学に勝るとも劣らない産業界や社会に役立つシーズが数多くあることです。世界的研究水準にあるものも感じられました。

一方で、研究推進課が中心となり、産学官連携体制の構築を検討中とも伺いました。今後、先生方の研究成果をより実りあるものにし、さらに発展させるためには、早急に産学官連携部門の設置や発明評価委員会の設置など、効率的な学内体制整備をしていく必要があるのではないかと、さらに他学並みの間接経費の投入も必要ではないかと感じております。

私どもは奈良県立医科大学の先生方のエイジェントです。常に先生方・大学側の立場に立ってお手伝いいたします。産学官連携・技術移転(競争的研究資金獲得、企業側との契約交渉、発明の先行調査など)に関することは、是非ともお気軽に私どもにお声をかけてください。奈良県立医科大学の研究成果を積極的に海外企業・国内企業問わず産業界にご紹介し、産学官連携の橋渡しを行いたいと考えています。

研究推進課から一言：平成22年度の利益相反行為に関する自己申告書の提出にご協力いただき、ありがとうございました。



平成22年度

科学研究費補助金の決定



(研究推進課)

平成22年度科学研究費補助金(文部科学省、(独)日本学術振興会)が決定しました。新学術領域研究及び若手研究(スタートアップ)等を除く平成22年5月1日現在の状況は表のとおりです。

来年度に向け、より積極的な申請をよろしくお願ひします。

	採択件数	金額	直接経費		間接経費	
			直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
H22年度	129件	216,590千円	170,570千円	46,020千円		
H21年度比	Δ1.1%	+5.0%				
H18年度比	+3.3%	+0.2%				

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
特定領域研究	生命システム医科学	教授	坪井 昭夫	マウス嗅覚系におけるCO2センサーの新規動作機構の解明	21~22
基盤研究B	健康政策医学	教授	今村 知明	健康被害リスクへの過剰反応の発生確認と予測手法等の開発	20~22
基盤研究B	第一内科学	教授	斎藤 能彦	心腎連関の基盤たる分子機序の解明	20~22
基盤研究B	生物学	講師	高橋 昭久	温熱耐性獲得における細胞核ダイナミクス変化の解明	20~22
基盤研究B	放射線腫瘍医学	特任教授	大西 武雄	放射線適応応答の分子機構の解明	21~23
基盤研究B	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	臓器受容および組織再生における血管新生機構の包括的解明と新規免疫制御法の開発	21~24
基盤研究B	病理病態学	教授	小西 登	前立腺癌幹細胞の効率的な新規獲得法の確立と癌幹細胞維持メカニズムの解明	22~24
基盤研究B	寄生虫学	准教授	吉川 正英	E.S細胞由来内耳有毛細胞の効率的誘導-細胞移植による聴覚機能回復にむけて-	22~24
基盤研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	細井 裕司	超音波聴覚のメカニズムと最重度難聴者のための超音波補聴システムの実用化研究	22~24
基盤研究C	(看)基礎看護学	講師	青山 美智代	看護技術の修得レベルを適切に評価する取り組み	19~22
基盤研究C	第二解剖学	講師	辰巳 晃子	脳に分布する新規細胞外マトリックス構造の組織化学的解析	20~22
基盤研究C	第一生理学	講師	和田 佳郎	高速運動動物体に対する動体視力の年齢的变化とその神経機構の解明	20~22
基盤研究C	保健体育	准教授	石指 宏通	高齢者のスポーツ活動における血栓形成機序の解明と予防策の構築	20~22
基盤研究C	数学	教授	藤本 圭男	射影代数多様体上の自己準同型写像の研究	20~22
基盤研究C	薬理学	教授	吉栖 正典	メタボリックシンドロームにおける酸化ストレスの関与の証明と新しい抗酸化療法の開発	20~22
基盤研究C	分子病理学	教授	國安 弘基	アンジオテンシン活性化機構を標的とする大腸癌肝転移治療戦略の確立	20~22
基盤研究C	地域健康医学	教授	車谷 典男	医療職に向けられた暴力的言動の発生件数の把握とその疫学的解析	20~22
基盤研究C	麻酔科学	助教	田中 優	手術室データをもとにした新しい病院コストモデルの作成	20~22
基盤研究C	第三内科学	講師	吉治 仁志	レニンアンジオテンシン系の慢性肝疾患におけるクロストークと治療への応用	20~22
基盤研究C	中央臨床検査部	講師	山崎 正晴	肝硬変腹水病態への腹腔マクロファージおよび反応性中皮細胞の関与	20~22
基盤研究C	第三内科学	准教授	植村 正人	重症肝疾患におけるADAMTS13の動態解析と制御機構の解明	20~22
基盤研究C	第二内科学	准教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肝疾患の全身性炎症における肺-消化管ネットワークの意義	20~22
基盤研究C	第二内科学	助教	友田 恒一	力学的呼吸負荷に対するヒト肺構造維持のメカニズム:コラーゲン線維三次元配列の解析	20~22
基盤研究C	神経内科学	教授	上野 聡	神経変性疾患におけるDNA修復能の検討と修復促進による治療基盤の確立	20~22
基盤研究C	小児科学	准教授	田中 一郎	抗第VIII因子インヒビターに対する免疫療法の効果発現機序に関する研究	20~22
基盤研究C	小児科学	教授	嶋 緑倫	第VIII因子活性増強抗体を用いた血友病A新規抗体療法に関する基礎的研究	20~22
基盤研究C	総合産科母子医療センター-新生児集中治療部門	教授	高橋 幸博	新生児の血栓・DICの病因解明と治療法開発の基礎および臨床的研究	20~22
基盤研究C	先端研・RI	准教授	森 俊雄	XPD変異を共通する二つの遺伝疾患でなぜ紫外線皮膚がん感受性が異なるか?	20~22
基盤研究C	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	悪性黒色腫の転移におけるコネキシン26の役割の研究と転移阻害薬の開発	20~22
基盤研究C	中央放射線部	准教授	田岡 俊昭	アルツハイマー病での辺縁系回路の拡散テンソル異常-臨床症状・予後との関連-	20~22
基盤研究C	分子病理学	博士研究員	大森 斉	温熱療法による癌幹細胞の抑制と治療への応用の検討	20~22
基盤研究C	整形外科	講師	朴木 寛弥	骨軟部腫瘍における腫瘍幹細胞の単離と新たな分子標的療法の試み	20~22
基盤研究C	麻酔科学	助教	佐々岡 紀之	新生児中枢神経における麻酔薬の神経毒性の検討	20~23
基盤研究C	産婦人科学	准教授	大井 豪一	羊水塞栓症診断のための新規マーカー探索と診療ガイドライン作成	20~22
基盤研究C	産婦人科学	講師	山田 嘉彦	新規分子標的抗腫瘍薬としてのサリドマイドを用いたオーダーメイド卵巣癌治療戦略	20~22
基盤研究C	産婦人科学	教授	小林 浩	子宮内膜癌の癌化を規定する原因遺伝子の解明と臨床的診断法の確立	20~22
基盤研究C	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	太田 一郎	頭頸部がんにおけるmTOR阻害薬による放射線増感効果の基礎的研究	20~22
基盤研究C	口腔外科学	医員	杉浦 勉	インプラント埋入直後および骨結合後の周囲骨のリモデリングに動的荷重が与える影響	20~22
基盤研究C	生命システム医科学	教授	中川 修	新規リン酸化酵素の骨格筋疾患における病態生理学的意義の研究	20~22
基盤研究C	生命システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅覚系における神経幹細胞の嗅細胞への分化と個性獲得の分子機構	20~22
基盤研究C	総合医療学	准教授	神野 正敏	超音波による分子標的治療増強効果の臨床応用に関する研究	21~23
基盤研究C	(看)哲学	講師	池辺 寧	看護倫理学の基礎づけとなるハイデガールの根源的倫理学についての研究	21~23
基盤研究C	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	胃癌前癌病変であるテロメア短縮病変における遺伝子異常	21~23
基盤研究C	第一内科学	講師	上村 史朗	慢性腎臓病に合併する高度動脈硬化症に対する創薬標的としての可溶性FLT1の研究	21~23
基盤研究C	(看)臨床病態医学	教授	濃田 薫	妊娠中の大気汚染曝露による喘息発症要因の母子間伝達とその制御機構の解明	21~23
基盤研究C	第一内科学	講師	岩野 正之	FSP1陽性ボドサイトによる系球体保護作用に関する検討	21~23
基盤研究C	第一内科学	助教	久保 篤史	胚性幹細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の同定と単離	21~23
基盤研究C	小児科学	講師	野上 恵嗣	第VII因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬への応用に関する基礎的研究	21~23
基盤研究C	精神医学	博士研究員	井上 雄一朗	未分化増殖細胞が摂食行動と体重に与える影響の解析	21~23
基盤研究C	精神医学	教授	岸本 年史	統合失調症患者におけるニューレグリン1機能の多角的解析	21~23
基盤研究C	精神医学	講師	法山 良徳	統合失調症モデルラットにおけるオスファチジルイノシトール系の関与について	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	講師	庄 雅之	消化器癌における獲得免疫機構の解明と外科との融合を旨とした新規癌治療戦略の開発	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	医員	植田 剛	微小重力環境を用いた多能性幹細胞の腸管神経分化誘導による新しい幹細胞移植法の開発	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	准教授	高 清峯	血友病根治療法としての異所性生体部分肝移植の可能性	21~23
基盤研究C	麻酔科学	助教	河野 安富	ラット前脳虚血モデルにおけるプロピルガレート脳保護効果に関する研究	21~24
基盤研究C	泌尿器科学	准教授	藤本 清秀	光学的診断を用いた尿中剝離腫瘍細胞の遺伝子変異解析システムの開発	21~23
基盤研究C	泌尿器科学	講師	石橋 道男	新規ガンマラクトン化合物とサイトカインにより誘導される腎固有の修復再生機構の解明	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	准教授	金廣 裕通	組織工学を活用した神経幹細胞によるヒルシュスプルング病に対する新たな治療戦略	21~23
基盤研究C	救急医学	准教授	西尾 健治	ADAMTS13の血液流動下における活性発現と抗炎症作用	21~23

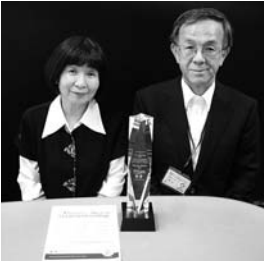
研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基礎研究C	口腔外科学	准教授	山本 一彦	マイクロRNAを標的とした新たな口腔癌の化学予防法の開発	21~23
基礎研究C	口腔外科学	講師	川上 正良	顔面骨格の形態パターンニングを制御する分子機構	21~23
基礎研究C	(看)基礎看護学	教授	藤田 比左子	看護職によるスタンダードプレコージョンの実践内容の修得と継続性に関する介入研究	21~23
基礎研究C	(看)地域看護学	講師	入江 安子	知的発達障害児とその家族を支援するコミュニティレジリエンスの育成	21~24
基礎研究C	(看)精神看護学	講師	木村 洋子	うつ病者家族を対象とした心理教育プログラムの開発及び評価	21~23
基礎研究C	総合医療学	助教	水野 麗子	超音波を用いた心筋のp53およびmTOR制御によるアンチサイクリン毒性の軽減	22~24
基礎研究C	第一生理学	教授	山下 勝幸	細胞内カルシウムストアの膜電位変化による細胞間電氣的結合	22~24
基礎研究C	放射線腫瘍医学	講師	玉本 哲郎	モバイル端末を用いた画像誘導放射線治療時代の遠隔放射線治療支援方法の確立	22~24
基礎研究C	第一内科学	助教	中谷 公彦	糖尿病での骨・カルシウム代謝異常におけるKlotho蛋白の意義の解明	22~24
基礎研究C	第一解剖学	講師	秦野 修	新たに見出した雌マウス副腎皮質が大量に産生するプロゲステロンの産生機序と役割	22~24
基礎研究C	輸血部	准教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後の致死的合併症である血栓性微血管障害症に対する新規治療法の開発	22~24
基礎研究C	総合医療学	講師	藤本 隆	シェーグレン症候群の唾液腺障害と再生機構の解明	22~24
基礎研究C	中央内視鏡・超音波部	准教授	藤井 久男	モザブリドを利用した腸管再生・新生法	22~24
基礎研究C	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	三次元培養心筋組織の作成：伸張刺激による細胞の配行と成熟、収縮力の増強	22~24
基礎研究C	整形外科	教授	田中 康仁	再生医療技術を用いた同種骨移植の再活性化に関する研究	22~25
基礎研究C	整形外科	助教	村田 景一	骨髄間葉系幹細胞を用いた血管柄付き自家骨置換型人工骨の開発	22~24
基礎研究C	麻酔科学	講師	井上 聡己	全脳虚血に対するβブロッカーの脳保護に関する研究	22~25
基礎研究C	麻酔科学	准教授	川口 昌彦	脊髄虚血後のミクログリア活性化制御による神経保護効果に関する検討	22~25
基礎研究C	第二生理学	助教	松吉 ひろ子	共培養した膀胱上皮細胞と膀胱知覚神経細胞のクロストーク解析	22~24
基礎研究C	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	睡眠障害は夜間頻尿の原因になるか？：簡易脳波睡眠診断を用いた検討	22~24
基礎研究C	産婦人科学	助教	佐道 俊幸	大豆蛋白を用いた早産予防薬の開発	22~24
基礎研究C	産婦人科学	助教	川口 龍二	プロテオーム解析による子宮内膜症からの卵巣癌発生機序の解明	22~24
基礎研究C	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	山中 敏彰	最重度平衡障害に対する感覚代行治療一実用化に向けた効果メカニズムの解明一	22~24
基礎研究C	口腔外科学	講師	川上 哲司	関節滑膜細胞におよぼす伸展ストレスの影響；酸化ストレスと遺伝子発現の誘導	22~24
挑戦的萌芽研究	放射線腫瘍医学	特任教授	大西 武雄	神経幹細胞のp53依存放射線/抗がん剤/温熱感受性の検討	20~22
挑戦的萌芽研究	第二解剖学	教授	和中 明生	大脳皮質の臨界期を制御する新規プロテオグリカン類の同定と機能解析	21~22
挑戦的萌芽研究	化学	教授	大崎 茂芳	クモの糸の大量収集に向けての新しい技術開発	21~23
挑戦的萌芽研究	第一解剖学	教授	西 真弓	プロテインスプライシング反応を用いたコルチコステロイド受容体の可視化	21~22
挑戦的萌芽研究	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	膵癌幹細胞を標的とした新たなBiTE抗体の開発	21~23
挑戦的萌芽研究	麻酔科学	医員	林 浩伸	非眼科的手術後の眼障害についての検討	21~23
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	研究員	金山 清二	マイクロアレイ・プロテオミクス技術を駆使した卵巣がんの予後規定因子の網羅的探索	21~22
挑戦的萌芽研究	寄生虫学	准教授	吉川 正英	SAR-E5細胞から内耳有毛細胞の効率的なin vitro分化誘導法の開発	21~22
挑戦的萌芽研究	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔がんにおける重粒子線照射によるp53非依存アポトーシスのメカニズムの解明	21~22
挑戦的萌芽研究	第一内科学	教授	斎藤 能彦	質量顕微鏡法を用いた心筋蓄積病の新たな診断法の開発	22
挑戦的萌芽研究	生物学	講師	高橋 昭久	温熱による放射線増感機構の解明	22~24
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	西村 忠己	骨導超音波を用いた補聴器システムの評価と臨床導入	20~22
若手研究B	生命システム医科学	助教	吉原 誠一	レンチウイルスベクターを用いた成体時における嗅球神経回路形成機構の解析	21~22
若手研究B	生命システム医科学	助教	坂部 正英	発生工学を用いた心奇形発症メカニズムの解明	21~22
若手研究B	病理病態学	講師	島田 啓司	膀胱癌における新規Akt/Bcl-2/MDM2/p53経路の機能解析	21~22
若手研究B	第三内科学	医員	森岡 千恵	急性肺炎重症化におけるADAMTS13の動態と制御機構	21~23
若手研究B	生命システム医科学	助教	林 寿来	血管系における新しい転写調節の分子機序と病的意義の解明	21~22
若手研究B	第二内科学	助教	山内 基雄	閉塞型睡眠時無呼吸症候群における病態多様性と新たな治療戦略一非線形解析を用いて一	21~23
若手研究B	精神医学	助教	澤田 将幸	事象関連電位による広汎性発達障害と注意欠陥多動性障害の併存の検討	21~23
若手研究B	胸部・心臓血管外科学	助教	内藤 洋	幅広い応用力を秘めた三次元培養心筋組織作成の試み	21~22
若手研究B	胸部・心臓血管外科学	研究員	田村 大和	生体位駆出心における心筋クロスブリッジ動態解析一放射光X線回折法による心不全評価	21~22
若手研究B	脳神経外科学	研究員	松田 良介	脊髄損傷に対するE5細胞移植治療一骨髄間質細胞共移植の検討一	21~22
若手研究B	泌尿器科学	博士研究員	鳥本 一匡	SERCA2a遺伝子が排尿機能に及ぼす影響	21~23
若手研究B	産婦人科学	助教	成瀬 勝彦	アディポカイン・テクトゾーを用いた妊娠合併症の早期発症予知・治療法の開発	21~22
若手研究B	救急医学	助教	福島 英賢	全血流動下における血栓形成と炎症の連鎖に関わる分子機構解明	21~23
若手研究B	分子病理学	助教	笹平 智則	口腔癌の新規リンパ管新生マーカーMIAの機能解析	21~22
若手研究B	生命システム医科学	助教	高橋 弘雄	マウス嗅覚系におけるCO2センサー細胞の発達と機能の分子機構	22~23
若手研究B	第二生理学	助教	小畑 孝二	全心臓カルシウム動態のエネルギーとイメージングの同時リアルタイム計測法の開発	22~23
若手研究B	地域健康医学	助教	岡本 希	認知機能の非遺伝的危険因子の検討と健康関連QOLへの影響に関する疫学的研究	22~25
若手研究B	地域健康医学	助教	佐伯 圭吾	血圧モニタリングと住宅温熱環境に関する横断研究	22~24
若手研究B	第一内科学	助教	染川 智	病的心筋リモデリングにおける食塩毒性とグアニリルシクロゼシグナルの役割の解明	22~23
若手研究B	第一内科学	助教	竹田 征治	腎不全における可溶性Flt-1の動脈硬化制御機序の解明	22~23
若手研究B	第一内科学	助教	山口 通雅	糖尿病性腎症の進展におけるFSP1陽性細胞の役割	22~23
若手研究B	神経内科学	講師	杉江 和馬	自己貪食空胞性ミオパチーの臨床病態解析とオートファジー分子機構の解明	22~24
若手研究B	血栓制御医学	講師	松井 英人	自己血管内皮前駆細胞による血友病Aに対する新規細胞療法の確立	22~23
若手研究B	寄生虫学	助教	王寺 幸輝	In vitro発毛システムの開発とWntシグナルによる発毛再生機序の解明	22~23
若手研究B	精神医学	助教	木内 邦明	主観的認知障害(SCI)を対象としたアルツハイマー病の早期診断に関する研究	22~23
若手研究B	放射線腫瘍医学	助教	浅川 勇雄	画像誘導放射線治療および適応放射線治療における機能画像応用の検討	22~24
若手研究B	脳神経外科学	助教	西村 文彦	樹状細胞と養子免疫を用いたマウス脳腫瘍モデルに対する治療	22~23
若手研究B	第二解剖学	助教	奥田 洋明	転写因子OASISによる神経軸索伸張抑制機構の解析と再生医療への応用の可能性	22~23
若手研究B	泌尿器科学	助教	穴井 智	光力学診断を用いた尿中前立腺癌細胞の検出	22~23
若手研究B	細菌学	助教	王寺 典子	HLA-E、-Gの脱落膜単核球細胞集団形成機構の解明	22~23
若手研究B	口腔外科学	助教	青木 久美子	フッ化ピリミジン系抗がん剤による味覚障害の発生機序解明と治療法の開発	22~23
若手研究B	(看)母性看護・助産学	准教授	五十嵐 穂子	妊婦のストレス緩和を目的としたアロマセラピーの短期的・長期的効果の研究	20~22
若手研究B	分子病理学	講師	千原 良友	膀胱がんにおける尿中DNAメチル化マーカーの臨床的有用性に関する研究	22~23
奨励研究	中央放射線部	技師(主任)	辻 佳彦	前立腺癌の密封小線源治療後の単純X線画像による線源数自動計数システムの開発	22

高木教授、アメリカ消化器病学会 Masters Award を受賞

本学第二生理学講座 高木 都教授が、第16回Masters Awardを受賞されました。これはアメリカ消化器病学会から基礎医学または臨床医学の消化器学の分野で顕著な研究業績を挙げた研究者に対して授与されるものです。おめでとうございます。

消化器病学におけるマスターズ賞 (Masters Award in Gastroenterology) を受賞して

生理学第二講座 高木 都



アメリカ、ルイジアナ州、ニューオーリンズで2010.5.1～5.5まで開催されたDDW2010におけるアメリカ消化器病学会 (AGA) で第16回マスターズ賞受賞者に、私、高木 都が選ばれました。一緒に選ばれた世界の受賞者の中で、日本人は私一人でありました。この賞は、消化器分野の権威から中堅までの研究者に与えられる賞で、消化器科学における基礎医学的または臨床医学的研究において優れた業績をあげたことが認められて与えられるものであります。後で聞いた話では、日本人としては4人目だそうです。これまではすべて男性研究者だったそうです。この賞はイーザイ (株) とPriCara (a division of Ortho-McNeil-Janssen Pharmaceuticals, Inc) のサポートにより、アメリカ消化器病学会から授与されるもので、賞金は7,500 dollarsで高木 都本人と奈良県立医科大学に半分ずつ授与されました。

私のこれまでの研究をサポートしていただいた奈良県立医科大学に謝意を表すると共に、共同研究者の方々から心から感謝するものであります。授与式はAGA会期中の5.3にニューオーリンズで行われました。残念ながら私は参加できませんでしたが、来年のシカゴのAGAには教室の若い研究者達と参加したいと思っています。

平成22年度看護功労賞知事表彰 (社団法人奈良県看護協会)

3名の方が受賞されました。おめでとうございます。



写真左から、
井上秀美主任 (耳鼻咽喉科・甲状腺外科外来)
和田容子師長 (B棟5階)
石川しのぶ副部長 (看護部管理室)

受賞者からひとこと

平成22年5月7日に、平成22年度看護功労賞知事表彰 (奈良県看護協会) を受けることができました。今回は、私たちを含め29名の受賞者でした。

この受賞にあたり、本学附属病院からの推薦をいただいたことに深く感謝いたします。看護の仕事は想定外のことが多く、マニュアルや理論だけで対応できるものではありません。経験を重ねるほど魅力が深まる職種だと思います。

近年早期退職の傾向が強まり、看護師においても新卒者の職場定着は大きな課題になっていますが、長年にわたり勤務が続けられたのも、職場の上司や同僚・友人・家族の協力・支援があったからです。これからも今までの経験をいかしながら、看護師として、また、ひとりの人間としてもお手本になれるように努力してまいりたいと思います。

今後ご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

石川しのぶ、和田容子、井上秀美

看護功労賞知事表彰:

保健衛生の向上発展に資することを目的として、長年にわたり看護業務に精励し、顕著な功績があった保健師、助産師、看護師、准看護師に対し知事が表彰を行います。

～備えあれば憂い無し～ 新規採用職員等の消防訓練

新規採用職員と転入者を対象とした消防訓練を5月27日及び6月3日に行いました。

今年は、対象者が192名となったため2日に分かれて、総勢174名の新規採用職員等が参加しました。中和広域消防組合檀原消防署員の指導のもと、大講堂前で水消火器と屋内消火栓を使用するの消火訓練と、B棟4階ベランダから3階への垂直式救助袋での降下訓練を体験しました。

いざというときに必要となる基本的な知識を体験を通じて得るための訓練でしたが、実際にこの経験を生かす必要がないように願っています。



活躍する専門看護師たち

がん看護専門看護師 (Oncology Certified Nurse Specialist:OCNS)

看護部 伊豆原 知恵



私は患者さんの人権を大切にしながら、患者さんががんとともに自分らしく生きていけるよう支援しています。現在は医師、看護師等からのコンサルテーションを通して病棟・外来を問わず、がん患者・家族に対する身体・心理・社会・スピリチュアルな苦痛の緩和、インフォームド・コンセントに同席し複雑な治療方針や療養先等の意思決定のサポート、カンファレンス等を通しスタッフのケアサポートを中心に行っています。また教育や研究活動を通してがん看護の質向上を目指して活動しています。

当院は県内唯一の都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、がん診療の均てん化(地域間の診療レベルの格差を無くし質の高いがん医療を提供)のために、地域の診療連携を推進する中心的役割も求められています。院内外も含めた幅広い活動の中で、ひとりでも多くの患者・家族の笑顔に出会えるようお手伝いができたらと思います。

がん患者・家族のことでお困りのことがあれば病棟・外来どちらでもお伺いいたします。患者・家族を支える、みなさまの医療チームの一員にさせていただければ大変嬉しく思います。

連絡先:内線3233

地域看護専門看護師 (Community Health Certified Nurse Specialist:CHCNS) 地域医療連携室 栗田 麻美



地域看護専門看護師は、地域で生活する全ての人々がより良い保健・医療・福祉のサービスを受けられることができるよう個人、家族、地域住民を対象に活動を行っています。

私は平成21年4月入職し、院内では地域医療連携室後方連携チームに所属し、急性期病院での治療が終わり、療養の場を移す患者さんやご家族が安心して安全に次の療養の場に移れるように主に退院調整看護師として活動しています。退院に関わる意思決定支援と共に、かかりつけ医、訪問看護事業所や福祉関係者などにケアを繋いでいます。在院日数がどんどん短縮していく中で、急性期医療機関の役割は急性期の医療を行うこととともに地域で医療を完結していけるように『繋ぐ』

ことが、ますます重要となっています。

訪問看護ステーションでの勤務の経験を生かし、自宅に帰ったらどのような療養生活が考えられるのか、どんなサービスを利用できるのか、具体的にどこに繋がればよいのかなど、病棟・外来のスタッフの皆さんと一緒に患者・家族の今後の療養生活をサポートさせていただきながら『地域に看護を繋いで』いきたいと思っています。

連絡先:内線3156

専門看護師は、困難でより複雑な健康問題を抱えた人、家族、地域等に対して、質の高い看護を提供するために、特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有する看護師です。看護系大学院修士課程を修了し、専門看護師カリキュラムを取得後、日本看護協会の認定を受けています。

専門看護分野は10分野(がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援)で、役割は以下の6つです。

- 1.実践:個人・家族または集団への卓越した看護実践
- 2.相談:看護職等へのコンサルテーション
- 3.教育:看護職者に対する専門分野の教育的機能
- 4.調整:保健医療福祉チームへのコーディネーター
- 5.研究:専門知識・技術向上及び開発をはかるための実践の場における研究活動
- 6.倫理調整:個人・家族または集団の権利を守るための倫理的問題や葛藤の解決

看護師・助産師募集

150名

病院説明会 7月17日(土) 7月30日(金) 8月6日(金) 13時~16時 随時受付

応募締切日 8月13日(当日消印有効)

試験日 8月28日(土) 8月29日(日) ※いずれか1日

詳しくは看護部採用サイトをご覧ください。 <http://www.naramed-u.ac.jp/~bosyu/kango/>

フッシュユな同僚からのメッセージ！

【臨床検査技師】

中央臨床検査部 血液・一般検査 ^{まえがわ} ^{さやか} 前川 彩香さん



臨床検査技師として入職して、はや3カ月が経ちました。初めは右も左もわからない私でしたが、親切な先輩方の熱い指導のおかげで、一つ一つ仕事が理解できるようになり、徐々にではありますが興味を持って仕事ができるようになりました。

私は今、血液・一般検査部門に配属され、採血業務や末梢血、骨髄等の検査を行っています。特にフローサイトメトリーという細胞表面抗原を測定する検査に興味があり、リンパ腫を初めとする血液疾患の治療の一助になれるようこれから努力していきたいと思います。また、普段の業務に加えて、週に一回の勉強会や学会の参加など、貴重な経験をさせていただいております。

まだまだひよこですが、立派な親鳥になれるよう一生懸命頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくをお願いします。

【診療放射線技師】

中央放射線部 CT・MR、放射線治療 ^{きたもと} ^{まさかず} 北本 正和さん



今年度から中央放射線部で働かせて頂いています、北本正和です。現在は主にCTとMRI検査を中心に勤務しています。画像診断は治療方針を決める上で重要な位置を占めるため、まだまだ未熟ではありますが、精一杯頑張っています。

どんな患者さん、疾患に対しても最速に最適な画像が撮れる「プロの放射線技師」を目指し、日々努力し続けるつもりなので期待してください。

ちなみに4月から実家に帰り、順調に体重が増えておっさんへの道まっしぐらな今日この頃ですが、夏に向けてシェイプアップしたいと思っています。どこかで見かけたら激励の言葉をかけて頂くか、良いダイエット法を教えてくださいと喜ぶますのでご協力よろしくお願いします。

【薬剤師】

薬剤部 内外用薬調剤 ^{いとう} ^{さとやす} 伊藤 都裕さん



薬剤師にとって、今年度は4月に診療報酬の改定、5月は六年制薬学部学生の臨床実習開始と慌ただしいスタートとなりました。

あと2年弱で六年制の薬剤師が世の中に出てきます。私は彼ら彼女らに負けないよう、それまでに薬剤師としての知識と技能を磨かなくてはと、ちょっとした緊張感を持ってその日に備えています。

学生の時、「研究者や科学者は薬剤師でなくてもよいが、薬剤師は科学者でなくてはならない」と指導を受けました。薬物療法のエビデンスは勿論のこと、化学構造や物理化学的性質、動態を把握しながら薬剤師として医療を考察していけるようこれからも精進していきたいと思っています。

【助産師】

看護部 A棟5階 ^{ほんだ} ^{かな} 本田 佳奈さん



生まれも育ちも奈良なので少しでも奈良に貢献できればと思い、4月に入職、産科病棟に勤務し早くも3カ月が経ちました。この間本当にあっという間に過ぎてしまいました。学生時代には感じることもなかった専門職の責任の重さや慣れない業務に不安や戸惑いを感じることも多くありましたが、日々新しい生命の誕生という貴重な場に関わることができ大変やりがいのある仕事であるかと再実感しています。

今はまだ先輩方や患者さんから学びを得るばかりの毎日ですが、少しずつでも得た学びを発揮できるよう、早く一人前になれるよう日々精進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

【看護師】

看護部 B棟6階 ^{だいく} 大工 ゆきさん



4月に集合研修を受け、病棟に配属されて3カ月が経ちました。

4月中は毎日決められた内容の研修を受けており、実際に患者さんを受け持つようになったのは5月に入ってからです。患者さんを受け持つようになって感じることは、自分の一つ一つの行動や言動の責任の大きさです。

B6病棟は消化器一般外科ではありますが、小児から老年、急性期からターミナルの方まで沢山の患者さんが入院されています。その分多くの知識が必要になってくるし、課題も多くしんどいと感じることもあります。一人立ちしている今でもしかられることはよくあります。できないことも沢山あります。でも、患者さんの笑顔や「ありがとう」の一言でまた頑張ろうと思ふことができます。

これからさらに勉強して、技術面でも精神面でも患者さんやスタッフに信頼される看護師に成長していきたいです。

今年、4月に大学職員として、新規採用された方からメッセージをいただきました。
初々しく頼もしい私達の仲間です。みなさん、応援よろしく申し上げます。m(_ _)m

【看護師】



看護部 C棟3階 ^{いそし}石西 ^{ひろき}央樹さん

集中治療部に颯爽とあらわれた、看護師1年生の石西央樹です。入社して3カ月が経ちますが、分からないことが多く、必死で業務をこなしています。集中治療部のスタッフの方々は、美人のプリセプターさんを筆頭に、優しく、時には厳しく指導して下さいます。

将来どのような看護師になりたいかと聞かれるのですが、まだはっきりとは描けていないのが実情です。しかし、「人と接するのが好き」「患者さんになにか自分ができることはないか」という強い思いで看護師になったんだ、ということだけは常に心の中に置いて、看護をしていきたいと思えます。

とても明るく、話しかけやすい性格だと思っていますので、どこかで見かけたときは、気軽に声をかけていただくと嬉しいです。

【看護師】



看護部 C棟8階 ^{すみおか}住岡 ^{りえ}理恵さん

今年4月に入社し、3カ月が経ちました。

最初は分からないことが多く戸惑いました。大学で学んだ知識を臨床の現場で思うように生かせず、自分の未熟さに悩んだりすることもあります。先輩が優しくとことん指導して下さること、また患者さんからの「ありがとう。また来てや。」という言葉に支えられ、希望を持ちながら日々夢中で働いています。

当科では、化学療法・放射線治療を行う患者さんが多く、治療補助・セルフケアの援助・疼痛コントロール・精神面のサポートなどさせて頂いています。

患者さんの苦しみ・痛みをやわらげるケアとはどういうものかを自分に問いかけながら、看護スキルを磨き、チームの一員として役割を果たせるよう日々精進していきます。

【臨床工学技士】



病院管理課 医療技術係 ^{かわにし}川西 ^{ひであき}秀明さん

今年4月に入社し、6月までの2カ月間は主に臨床工学技士としての臨床業務とMEセンターでの機器管理業務を行っていました。

そして6月より、臨床工学技士の業務拡大の一つである麻酔介助業務を行っています。この業務はこれまでにMEが関わることはなく、いろいろと戸惑うことがあります。毎日、麻酔医の先生方にご指導いただきながら、麻酔科としての術前準備、麻酔器の始業点検、術中のモニタリング・麻酔記録等を行っています。全国でもMEには初めての業務ということもあるので、一つ一つの業務に責任を持ち、精一杯頑張りたいと思います。

【事務】



財産管理課 財産係 ^{なかにし}中西 ^{やすひろ}康裕さん

どのような仕事をするのかも全くわからないまま、社会人生活1年目が始まりました。財産管理課では、施設管理に関する各種業務委託の入札、契約、支払いなど事務的な仕事はもちろんのこと、ゴミの分別、シャワー室のカビ取り清掃、放置自転車の整理、花の植え替え等々、仕事内容は多岐にわたります。

実は私は、就職試験の小論文と面接で、医大の職員として「美しい大学」を目指し尽力していきたいと述べました。まさに現在その通りの仕事内容ですが、3カ月を経て思うことがあります。それは、「美しい大学」を作り上げていくには職員全体でその目標に取り組み、それを学生や患者さん方にもよく理解してもらえよう働きかけていく必要があるのではないか、ということです。今後も、「美しい大学」を目標に職務に励んでいきたいと考えております。

【事務】



病院管理課 用度係 ^{ちはら}千原 ^{まさき}理騎さん

今年の4月に入社し、病院管理課の用度係として衛生材料・歯科材料・日用品などの発注・支払業務や値引交渉を担当しています。

約3カ月間勤務しましたが、まだまだ不慣れで至らない部分が多々あり、先輩や上司の方々にお世話になっている日々です。しかし、病院経営に直接携わっているということに、大きな責任感と充実感を感じながら頑張っています。

今後は、現場で働くスタッフの方々とともに、より良い病院経営が行えるよう協力し合い、地域の人々にそれらのサービスを還元できるよう精一杯努力したいと思っていますので、よろしく申し上げます。

総合案内が新しくなりました！

～フロアマネジメントできめ細やかなサービスを～



すでにご覧になった方も多くと思います。
今年4月に、病院の正面玄関ホールに新しいカウンターが設置されました。車椅子を利用される方や、受付をお待ちの方の利便性に配慮したものとなっています。

このカウンターでは、これまで料金計算カウンター端の1番窓口で行っていた初診・再診の受付や、総合案内を行うとともに、新たに看護師1名、事務職員2名、計3名の専任

職員を配置し、フロア案内など、来院者へのよりきめ細やかなサービスを行っています。

設置から3カ月が経過し、「何科で診てもらえばいいのかわからない」という受診相談、「検査室へはどう行けばいいのかわからない」「家族とはぐれてしまった」などの問い合わせ、また、「待ち時間が長い」などのおしかりも寄せられています。

職員は患者さんやご家族の不安・不満を少しでも軽くして、安全で安心な医療を提供できるように、日々笑顔で対応しています。

今後も利用者の声に耳を傾け、よりよいフロアマネジメントに努めます。皆様のご協力を心からお願いいたします。
(医療サービス課)

下ツ道

(編集後記)

この春から学報編集委員の半数が交替しました。新メンバーの加入により、また新しい観点で学報を見直すことができ、より充実した内容となることを期待しています。また、皆様からのご意見もお待ちしております。アイデアや掲載情報がありましたら、お近くの編集委員まで声をおかけください。
今号の産学官連携だよりには産学官連携の取り組みや知財に力を入れているとの記事がありました。頼もしいですね。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

- 今村 知明 (健康政策医学)
 - 高橋 昭久 (生物学)
 - 笹平 智則 (分子病理学)
 - 植村 正人 (内科学第三)
 - 坂東 春美 (地域看護学)
 - 錦 三恵子 (看護部)
 - 岡 眞啓 (研究推進課)
 - 鷹本 純史 (学務課)
 - 奥田 稔 (病院管理課)
 - 鷹野 寛 (総務課)
- (○印は編集委員長)

加齢黄斑 kareiouhan.com

加齢黄斑ドットコム ご案内

アクセスはこちらへ <http://www.kareiouhan.com/>

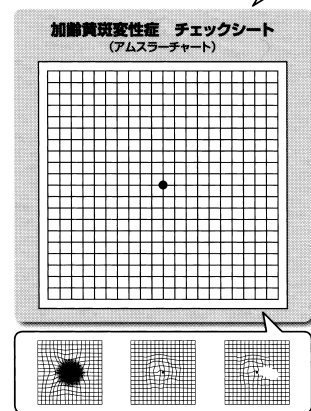
加齢黄斑ドットコム

検索

クリック

約30cm離して、眼鏡を掛けたまま、片目ずつご覧ください。

加齢黄斑ドットコムでは、一般の方や患者様に向けて、**加齢黄斑変性症の疾患、症状、検査、治療および治療施設**についてわかりやすく紹介しています。



上記のアムスラーチャートという格子状の図形を用いて加齢黄斑変性症の簡易的な検査ができます。

厚生労働大臣賞受賞
このwebサイトは、日本web協会「アクセシビリティ2009」審査において厚生労働大臣賞を受賞しました。

広告

ナルティス ファーマ株式会社

2010年3月作成

このページに広告を掲載しませんか? くわしくはこちら → <http://www.narmed-u.ac.jp/gakuho/>